

2025年3月期 決算説明会



**Power Electronics
for Your Innovat!on**

サンケン電気株式会社

2025年5月14日

**Power Electronics
for Your Innovation!**

独自性のある技術、
人と組織のパフォーマンスで成長し、
社会のイノベーションに貢献する
高収益企業の実現

- 2024年度 通期業績
- 2025年度 通期業績予想
- 24中計 サンケンコア

2024年度 通期業績

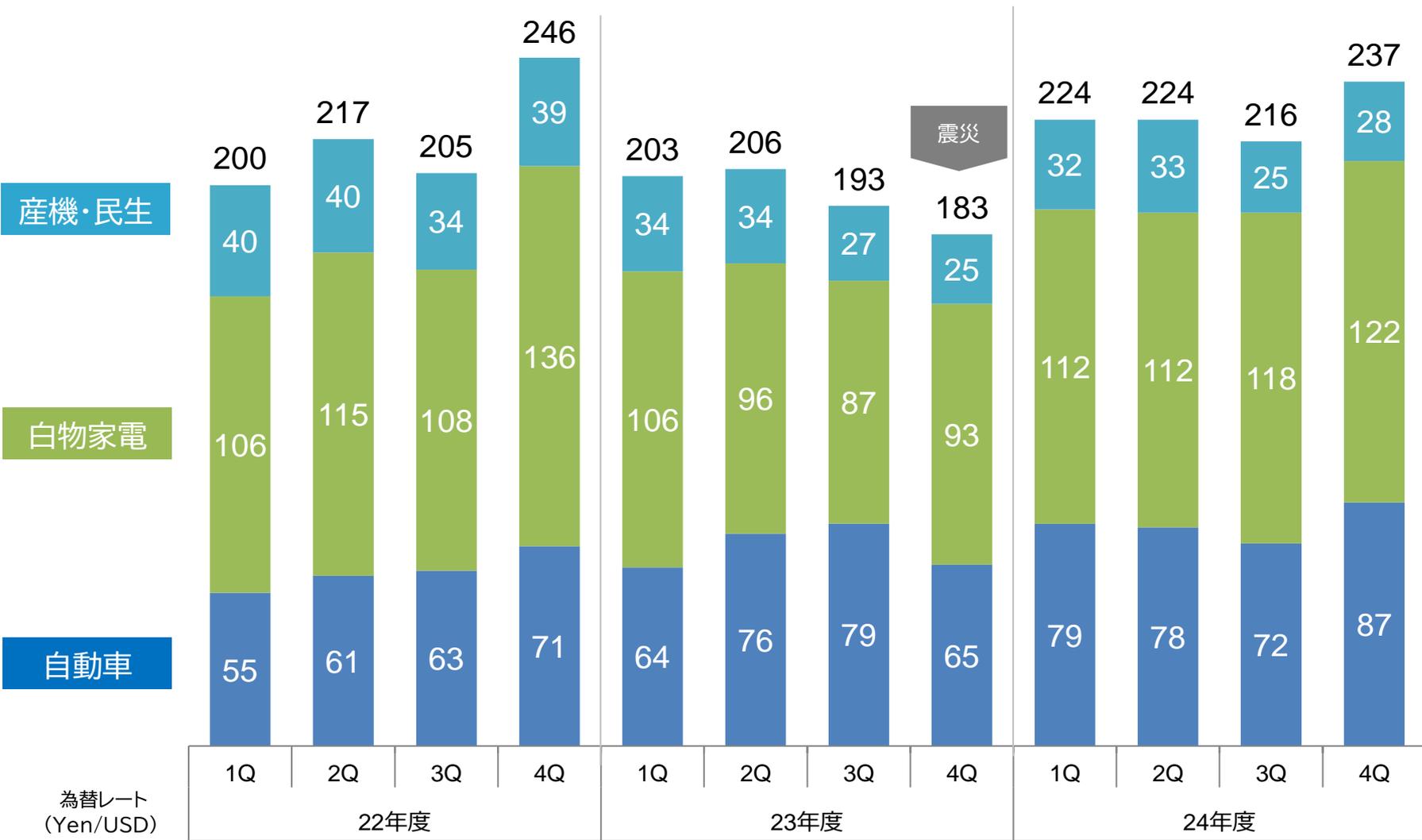
(億円)	2023年度					2024年度					通期 前年比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	金額	増減率
売上高	599	616	583	554	2,352	498	230	233	255	1,216	-	-
サンケンコア	203	206	193	183	785	224	224	216	237	900	+115	+14.7%
その他	396	410	390	371	1,567	275	6	17	18	316	-	-
営業利益	85	86	46	-22	195	-46	-10	2	16	-38	-	-
サンケンコア	9	1	1	-41	-30	3	-1	4	15	20	+50	-
連結調整他	77	85	45	18	226	-49	-9	-1	2	-58	-	-
持分法投資/LPS運用損益	-	-	-	-	-	-	-20	18	-48	-50	-	-
経常利益	79	88	40	-25	182	-57	-86	34	-35	-143	-	-
特別損益	-2	-5	-10	-70	-87	15	634	6	-7	648	-	-
当期純利益	22	22	0	-126	-81	-27	507	32	-2	509	-	-
一株当たり当期純利益 (円)					-335.99					2,119.53	-	-

為替レート 累計平均 137.50 141.07 143.34 144.60 155.87 152.79 152.65 152.63 ※2024年度2Qよりアレグロは連結対象外のため増減はサンケンコアのみ記載
 (Yen/USD) 3か月平均 137.50 144.64 147.87 148.63 155.87 149.70 152.38 152.57

<2024年度通期の主な変動要素(億円)> ※勘定科目に関わらず、金額はプラス・マイナスで表示

営業利益	・連結調整他	: - 58	(アレグロ・PSL-48、旧ユニット-4)
営業外費用	・持分法投資/LPS運用損失	: - 50	(アレグロ当期純利益の持分損失 -37、LPS運用損失 -13)
	・為替差損	: - 55	(アレグロ株式一部売却に伴う為替変動要因含む)
特別利益	・固定資産売却益	: + 16	(旧川越工場売却益 1Q計上)
	・持分変動利益	: + 983	(アレグロ株式売却益+1,291、持分変動調整-308)
	・事業分離における移転利益	: + 74	(PSL持分変動調整)
特別損失	・関係会社整理損	: - 9	(サンケンインドネシア)
	・減損損失	: - 14	(志賀工場閉鎖-10)
	・事業再編損	: - 400	(PSL支援金一括引当)
法人税等		: - 13	(アレグロ株式一部売却に伴う税金含む)
非支配株主持分損失		: + 17	(1Qアレグロ当期純損失の戻り、為替レート調整含む)

(億円)

為替レート
(Yen/USD)

	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
累計平均	129.74	134.05	136.51	135.51	137.50	141.07	143.34	144.60	155.87	152.79	152.65	152.63
3か月平均	129.74	138.29	141.38	132.44	137.50	144.64	147.87	148.63	155.87	149.70	152.38	152.57

アレグロ株式の一部売却により改善した財務体質を維持

23年度末からの変化

	23年度末	24年度末
自己資本比率	31.1%	56.9%
D/Eレシオ	1.2x	0.4x

※23年度末はアレグロ・PSLを含む

2025年度 通期業績予想

(億円)	24年度実績			25年度予想			通期 前年比	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	増減率
売上高	728	488	1,216	438	454	892	-	-
サンケンコア	447	453	900	426	455	881	-19	-2.2%
その他	281	35	316	12	0	12	-	-
営業利益	-57	19	-38	-11	15	4	-	-
サンケンコア	2	18	20	-7	19	12	-8	-39.9%
連結調整他	-58	0	-58	-4	-4	-8	-	-
持分法投資/LPS運用損益	-20	-30	-50					
経常利益	-142	0	-143	-13	1	-12	-	-
特別損益	649	-1	648					
当期純利益	480	29	509	-41	-3	-44	-	-
一株当たり当期純利益(円)			2,119.53			-183.10	-	-

為替レート (Yen/USD) 累計平均

152.63

145.00

※2024年度2Qよりアレグロは連結対象外のため増減はサンケンコアのみ記載

2025年度 対ドル想定為替影響(1円変動/年): 売上高 約4億円 営業利益 約2億円 (円安でプラス・円高でマイナス)

関税影響: 業績への影響が判明した時点で速やかに開示

- 売上高 : 為替レート 145円想定により、前期比 ▲19億円
- 営業利益 : サンケンコア 下期は後工程再編計画の進捗に伴い増益を見込む
- : 連結調整他 旧ユニット製品販売は、上期にて終了も清算業務は継続
- 特別損益 : 石川サンケンの希望退職募集に伴う特別損失として約22億円を上期に計上予定

～マクロ経済の動向～

- 世界経済の不透明感は継続
- 米政権による相互関税の影響はあると考え、サプライチェーンでの評価を継続、現時点で直接的な影響を精査中
- 相互関税による各国経済・景況への波及から、間接的な影響も精査中

自動車市場

- CY25 OEM生産台数 92.4M台
(関税影響前予測、CY24比 +2.4%)
→関税影響後の需要を注視
- BEVシフトは中長期では不変も2年程度延伸、FY26後半から立ち上がる想定
- 高電圧補機システムの需要拡大により、当社IPM製品の受注開始

白物家電市場

- 中国国内需要の落ち込みから、エアコン大手は輸出モデルの生産を拡大、CY25の各社計画は微増の展開
- 韓国顧客のCY25生産は、前年比伸長
- 日系顧客は、国内外向けとも需要横ばい見込
- 欧米顧客への新規開拓は順調に進展

産機/民生市場

<産機>

- 産機向け半導体は、経済の停滞や設備投資の伸び悩みから、全般的な需要回復に至らない

<民生>

- グローバルでのTV需要は横ばいで変化なし

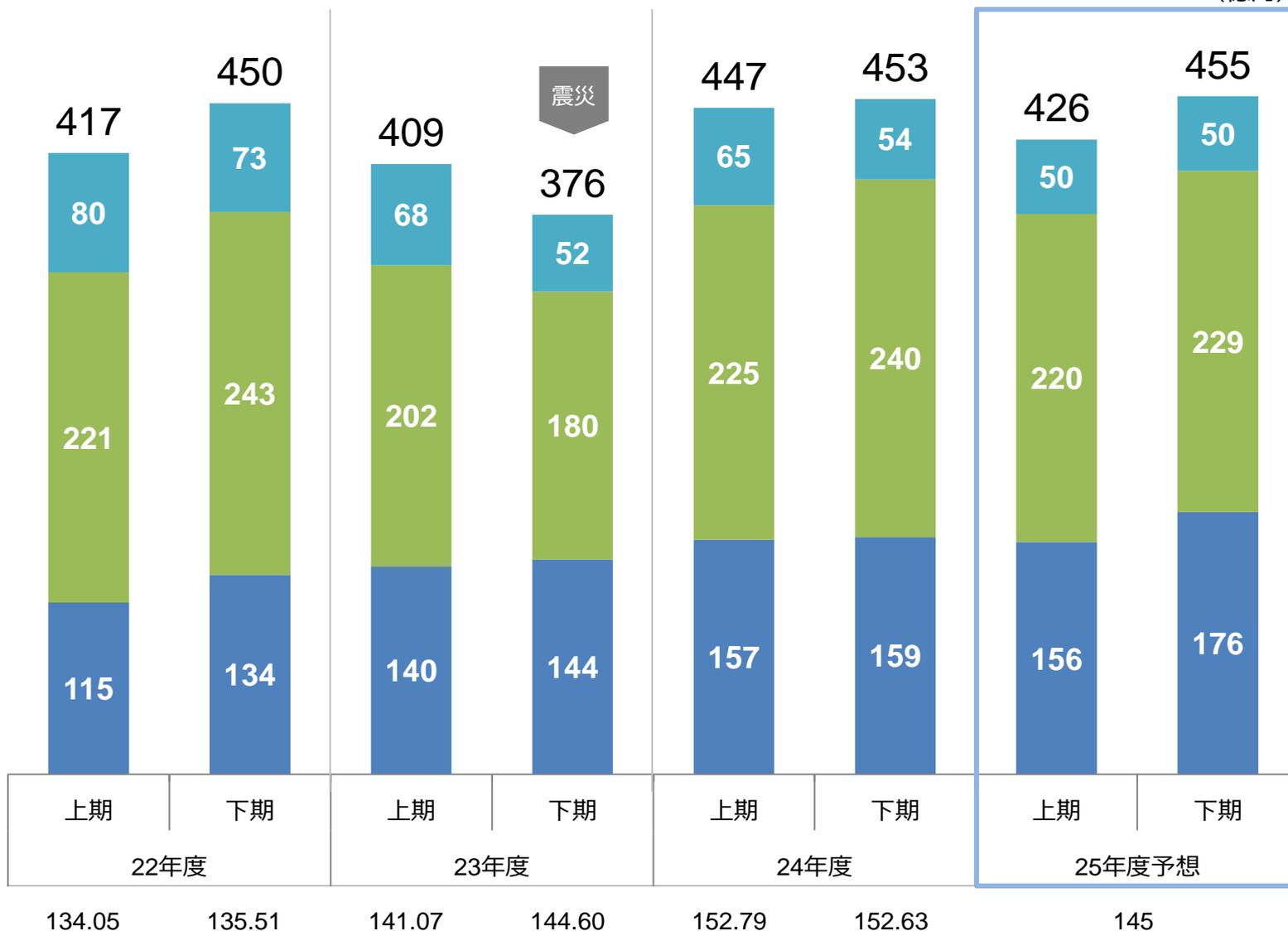
予想 サンケンコア市場別売上高 半期推移

(億円)

産機・民生

白物家電

自動車



震災

為替レート
(Yen/USD)
累計平均

134.05 135.51 141.07 144.60 152.79 152.63 145

参考 決算短信 重要な後発事象

(連結子会社における希望退職者の募集)

当社の連結子会社である石川サンケン株式会社は、2025年5月9日開催の臨時取締役会において、希望退職者の募集を行うことについて決議いたしました。

1. 希望退職者の募集を行う理由

連結子会社である石川サンケン株式会社では、従前よりグローバルで競争力を高めるための経営改善に取り組んでおりました。こうした中で半導体市況の変化に応じた生産体制の変革・移管等を行ってまいりましたが、同社において更に踏み込んだ半導体後工程の再編計画を実行するにあたり、同社取締役会は希望退職者の募集を決定しました。

2. 概要

- | | |
|----------|-------------------------------|
| (1) 対象者 | 2025年5月31日時点で45歳以上の社員（再雇用者含む） |
| (2) 募集人数 | 約200名 |
| (3) 募集期間 | 2025年6月30日～2025年7月11日まで |
| (4) 退職日 | 2025年9月末日（予定）、2026年3月末日（予定） |
| (5) 優遇措置 | 通常の退職金に割増退職金を加算して支給する |

3. 業績に与える影響

本件に伴い発生する特別割増退職金等は現時点では約22億円を見込んでおり、2025年度連結決算において特別損失として計上する予定です。

24中計 サンケンコア

売上拡大とともに利益を生み出す企業へ変革

	24年度実績	25年度予想	27年度目標	
売上高	900億円 (152円/USD)	881億円 (145円/USD)	1,000億円以上	製品戦略 <ul style="list-style-type: none">• SPP-プラットフォーム製品とカスタム製品の両輪で成長 拡販戦略 <ul style="list-style-type: none">• セグメント別成長戦略に基づき、自動車・白物・産機の各市場へ取り組む
パワー半導体の市場成長率を上回る成長を目指す				
営業利益率	2.2%	1.4% 上期 -1.6 % 下期 4.2 %	10%	利益改善レバー <ul style="list-style-type: none">• 新製品比率向上• 既存製品の収益改善• 原価改善

キャピタルアロケーションの進捗

24中計は安定した財務基盤のもと、積極投資を遂行

キャピタルアロケーション方針

設備投資等 300億円以上
成長投資 200億円
PSL支援金 400億円/6年間
負債返済 300億円
自己株式取得 300億円

5/14現在

FY24実績+パウデック買収 160億円
FY25~FY27投資等 340億円以上 オントラックで推進
計画通り進捗
3/E時点で 前期比300億円返済済み
4/E時点で取得率49% 9/Eまでに取得完了予定

<事業拡大に向けた投資活動として>

- ・xEV市場 主機/補機向け
パワーモジュールの増産
- ・工場インフラ及び生産ラインの更新
- ・生産性改善

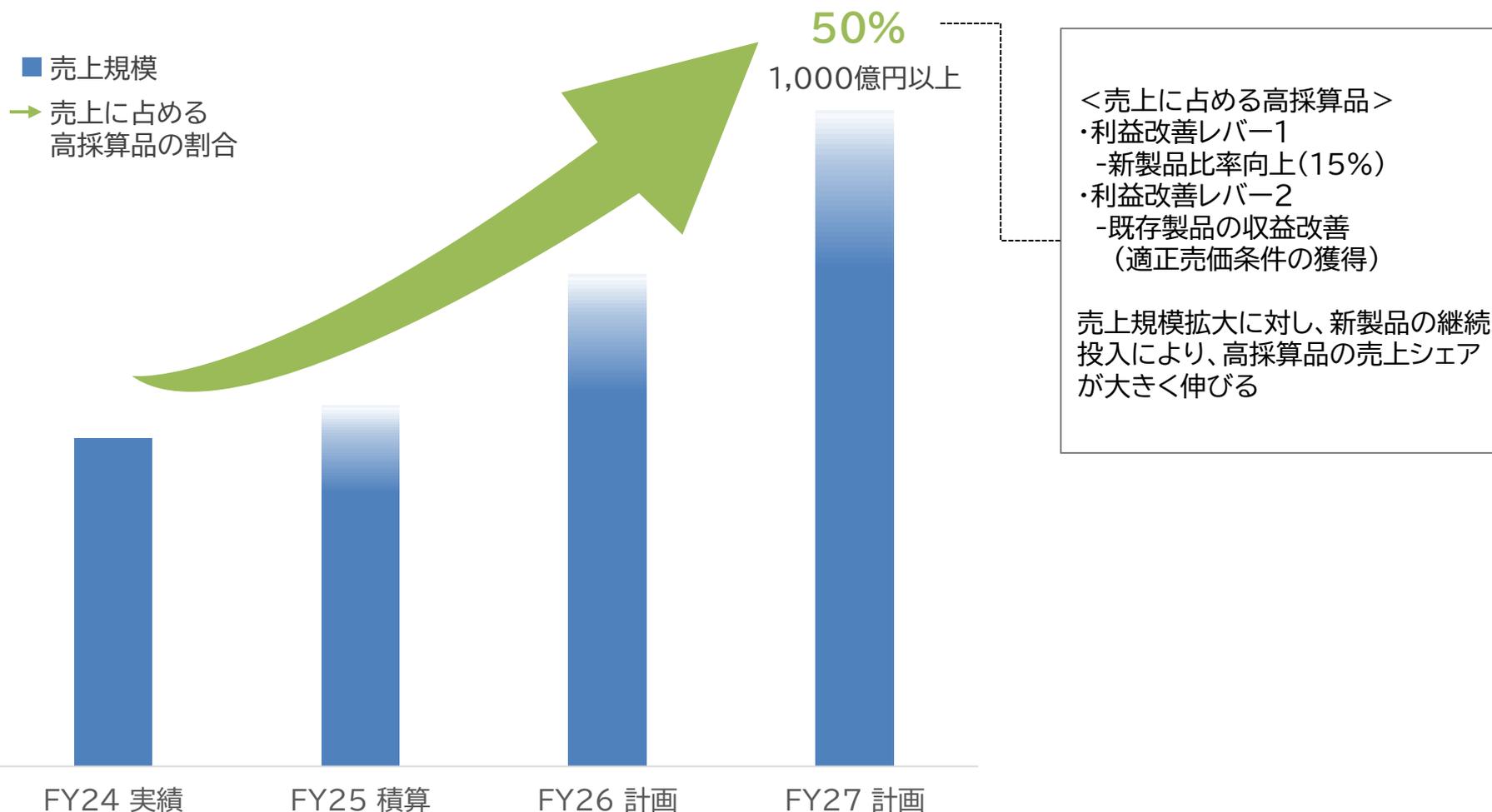
<将来の成長に資する投資活動として>

- ・化合物半導体 取組み強化
- ・後工程再編における最適生産体制の構築

<3/Eは削減規模を最大化>

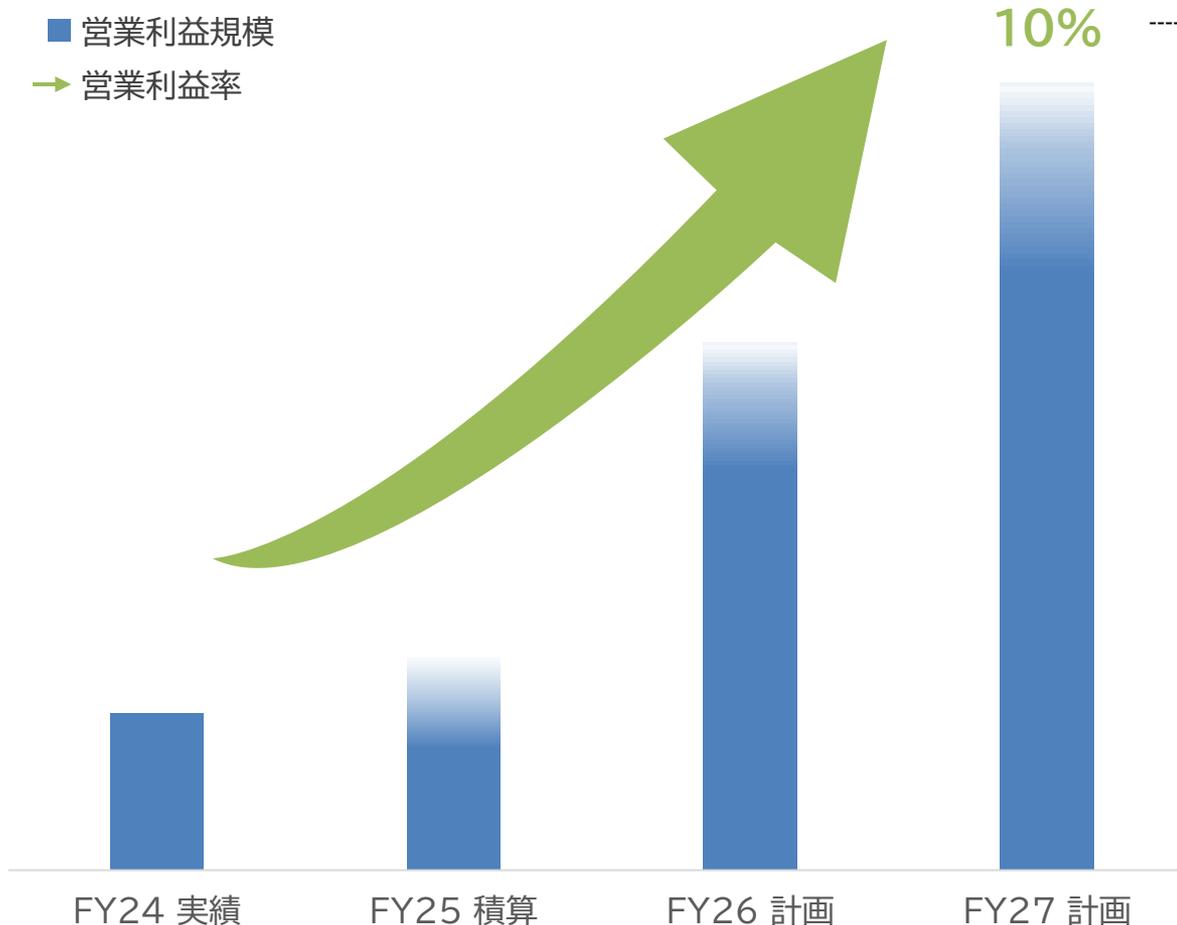
- ・24中計における資金需要に柔軟に対応
- ・FY25では負債借換や資金需要に応じた調達を想定

高採算品の売上シェアが大きく伸び、収益拡大に寄与



製品Mix改善と原価改善が収益強化の柱

■ 営業利益規模
 → 営業利益率



<利益創出の構成>

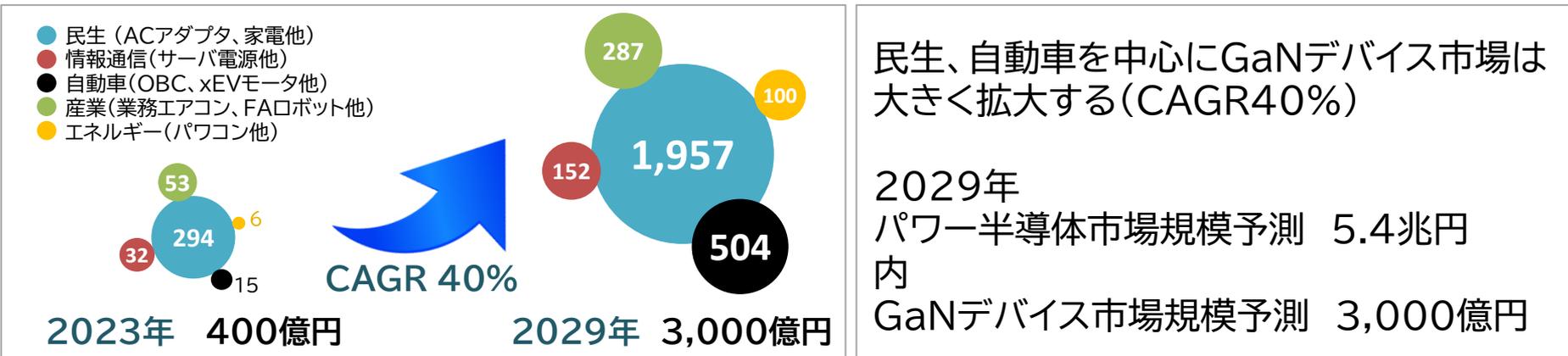
- ・利益改善レバー1,2
 - 高採算品の比率アップに伴い、製品Mix効果が発出
- ・利益改善レバー3
 - 変動費/固定費の低減活動により収益力を強化

FY26では、売上の増加に伴う製品Mix改善の効果が創出利益の多くを占め、営業利益率は5~7%程度を狙う

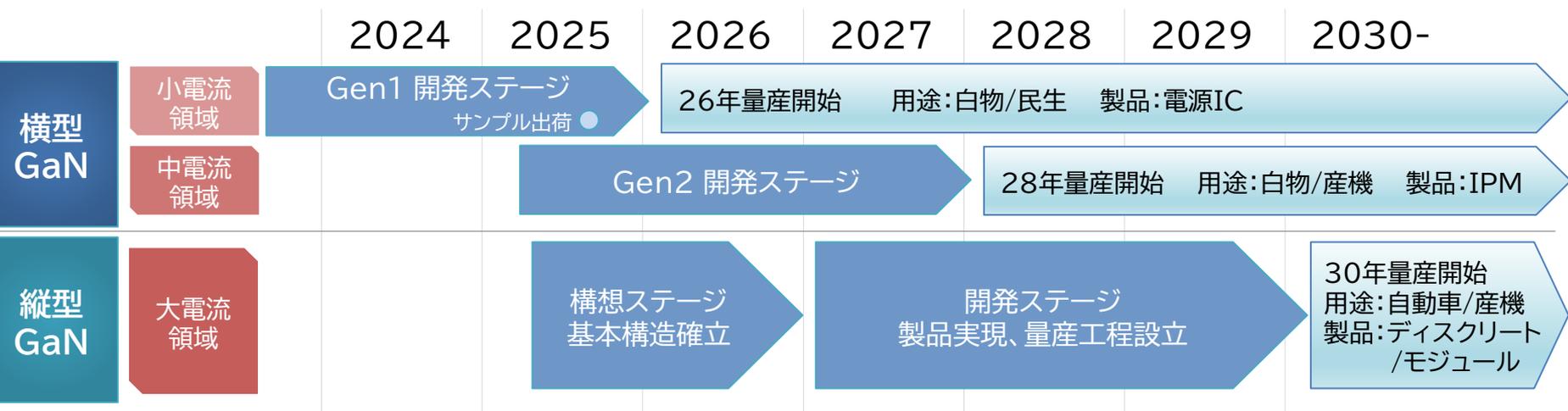
FY27では、原価改善側の効果がより多く捻出され、収益改善の底上げに繋がる見込み

社外との協業によりGaNデバイス開発を加速

GaNデバイス市場成長予想 ※Yole社市場データと当社調べに基づく市場予測



GaNデバイス開発～量産構想



パウデックを買収 高耐圧GaNパワー半導体の製品化を目指す

<買収の目的・狙い>

2023年からスタートしたパウデックとの共同開発において、高耐圧横型GaN（通称PSJ-GaN）の実現性を確認、早期の製品化・上市を目指すべくパウデックを買収することが開発スピードの加速に最適であると判断した

当初は、白物家電や産機市場における省電力、小型、軽量化につながる製品化を目指し、将来的には自動車のxEV領域における、充電時間の短縮やスペース・重量の削減につながるGaNパワー半導体を実現させる

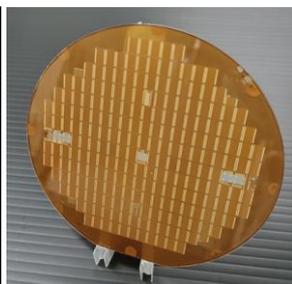
なお、本年10月1日付でパウデックを吸収合併予定

パウデック独自のGaN技術

PSJ 構造の横型GaN-FET



低オン抵抗で高耐圧化が容易



試作中のGaN-FET

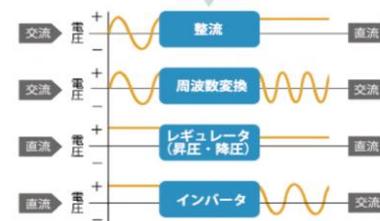
+

サンケンのパワーマネジメント技術

コントロールIC



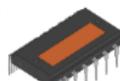
アナログ・デジタル両面で高効率・高精度の電力制御



高耐圧GaNパワー半導体ソリューション



GaN搭載電源IC



GaN搭載IPM

・パワーデバイスとして主流である650V耐圧に加え、1200V、1700Vの高耐圧GaNを開発する

・得意のパッケージ技術に、高耐圧GaNとコントロールICを組み合わせたパワーモジュール/パワーデバイスを顧客の使いやすいソリューションにて提供する

自動車市場

- ・横型PSJ-GaN 1200V OBC/DDコンバータ/補機
- ・縦型GaN 1200V BEV主機インバータ

産機市場

- ・横型PSJ-GaN 1700V 電源IC:業務用空調/AWHP
- ・高周波/低損失の特徴を活かし、サーバー系電源へ展開

白物家電市場

- ・横型PSJ-GaN 650V /エアコン/洗濯機/冷蔵庫
- ・電源ICとIPMの両展開

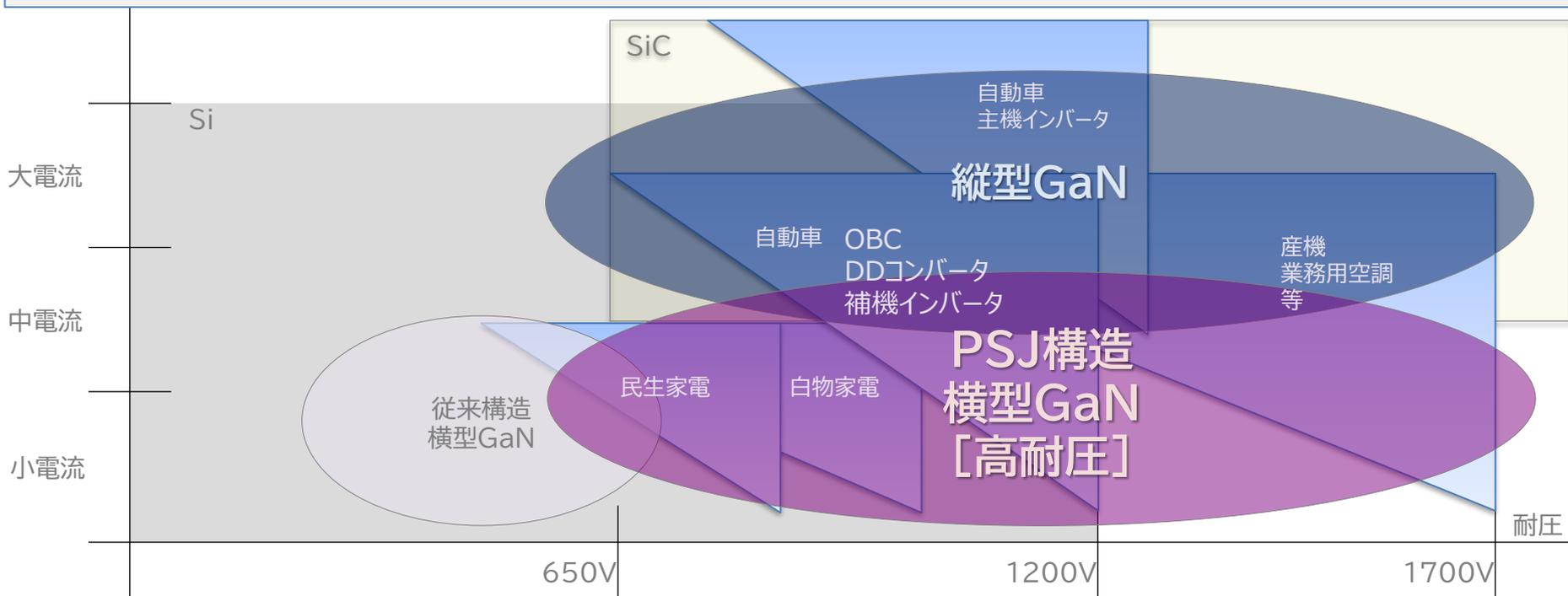
GaNを将来の成長ドライバーと位置づけ開発を加速

Step1: 小～中電流領域を、Siから**横型GaN**に置換えることで大幅な性能向上や小型化を実現

Step2: 将来的には大電流に対応出来る**縦型GaN**を開発し、SiC市場の一部を置換える狙い

< GaNに置き換えることのメリット >

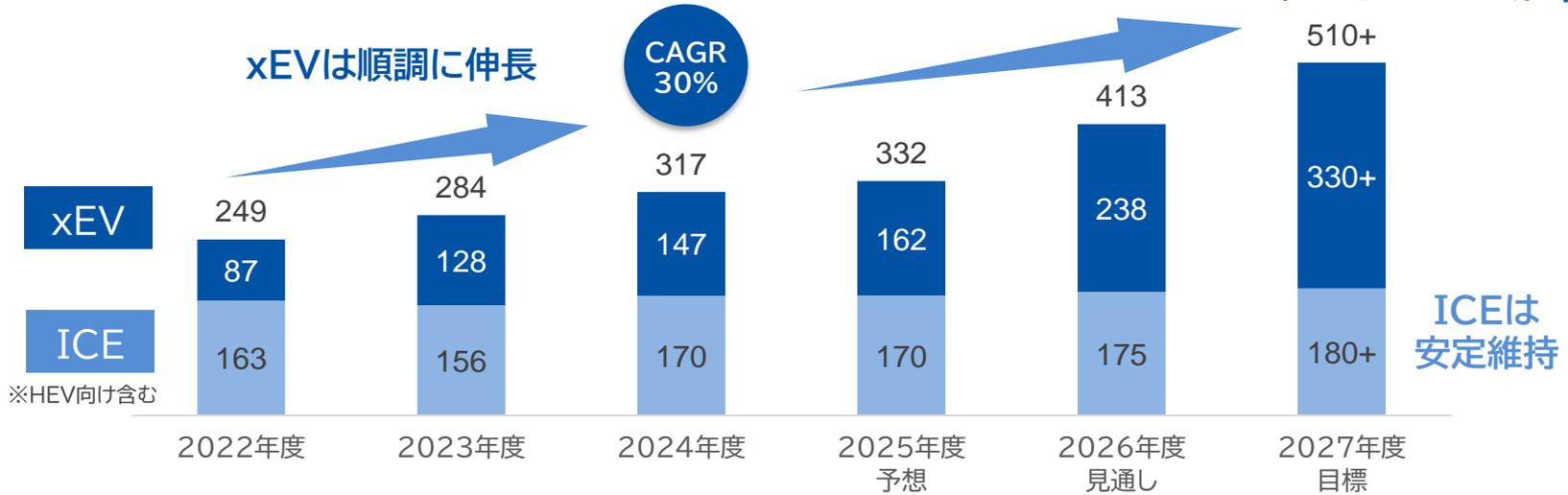
- ・**横型GaN**は、Siよりも低損失であることから、機器の小電力、小型、軽量化に繋げることができる。なおかつ**横型PSJ-GaN**は1200、1700Vといった、従来の横型GaNよりも高耐圧の範囲をカバーすることができる
- ・**縦型GaN**は、SiCよりも素子性能が良く、電力密度を高くすることで、チップサイズを小さくすることが可能
これにより、さらなる小型・軽量化に繋げることができる



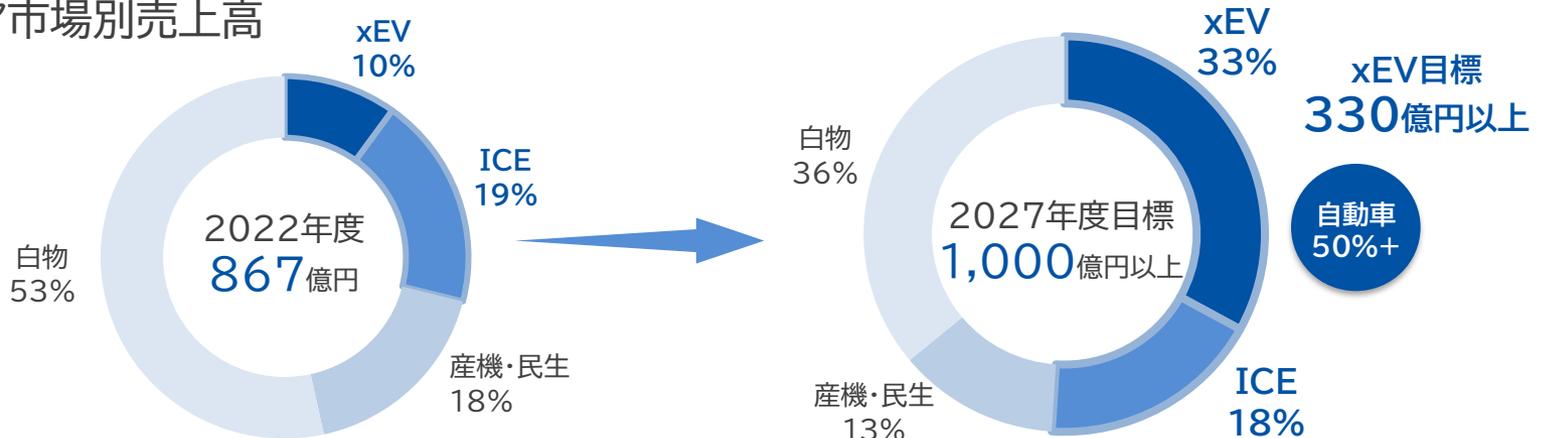
BEVシフトは2年程度延伸も中長期では不変

サンケンコア自動車向け売上高(億円)

EVトラクションモータ用
パワーモジュールが牽引



サンケンコア市場別売上高



24中計の実効性をより高めるガバナンス体制へ

取締役会体制

- 6月の定時株主総会に、新任社外取締役候補2名を上程予定

経歴 瀬木氏:元 セイコーエプソン株式会社 代表取締役、経営戦略やサステナビリティの知見・経験
柳澤氏:現 株式会社IGW Japan 執行役員、財務・監査や新規事業立上げの知見・経験

- 2名はいずれも豊富な企業経営経験を有する

執行体制

- CxO体制(チーフオフィサー制)への移行:
 - 24中計の推進と企業価値向上の実現に向け、業務執行における責任区分と、役割の明確化のためCEO、COO、CFOを新設
 - 多様な経営課題の対応や戦略実現を迅速かつ的確に進める

適切な復配時期を見定めつつ、自己株式取得の完遂にコミット

自己株式取得

- 2025年4月までに、147億円、226万株（発行済み株式数対比9%相当）の取得を完了
- 2024年11月公表のとおり、取得完了後、自己株式の消却を予定

配当方針

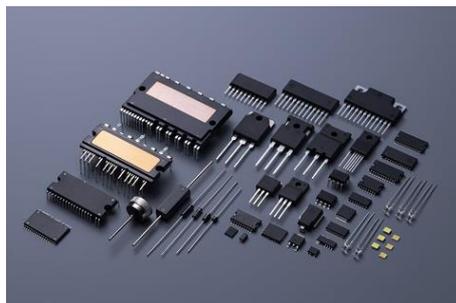
- 旧ユニット製品の事業撤退、及び後工程の生産再編等に取り組む現況に鑑み、25年度は無配継続
- 26年度のサンケンコアの収益性改善の見通しに応じて復配を予定。キャッシュフロー、投資計画等に応じて適切な配当方針を検討

マーケットポジション

パワー半導体市場でグローバルの地位を確立

パワーディスクリート・モジュール ※1

世界 **19** 位
国内 **6** 位

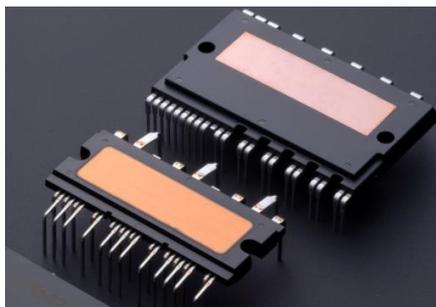


パワーモジュール ※1

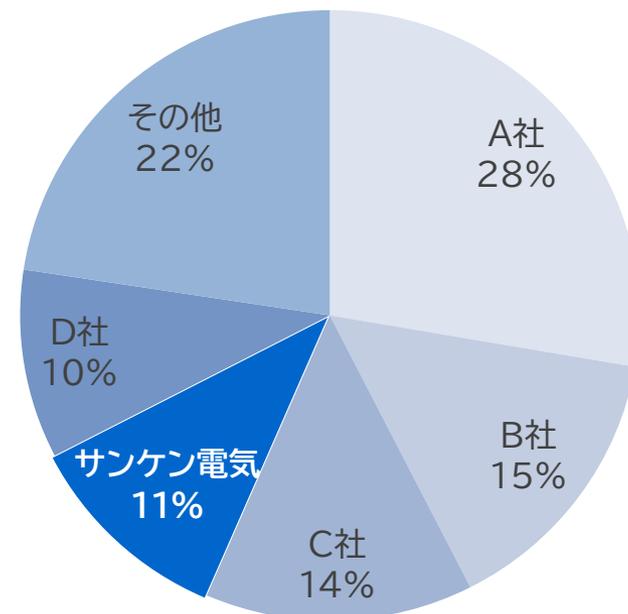
世界 **10** 位
国内 **3** 位

IPM(インテリジェント・パワーモジュール) ※2

世界 **4** 位
国内 **3** 位



IPMマーケットシェア ※2



※1: Omdia (2024年10月調査より)

※2: 富士経済「2025年版 次世代パワーデバイス&パワエレ関連機器市場の現状と将来展望」より



2025年3月期 決算説明会

将来に関する記述についての注意事項

この資料に記載されている当社及び当社グループに関する業績見通し、計画、方針、戦略、目標、予定、判断、認識などのうち既に確定した事実でない記述は、将来に関する記述です。これら将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する前提を基礎として作成したものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいます。従って、実際の業績は、これらのリスク、不確実性、その他の要因により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。また、当社は、適用法令の要件に服する場合を除き、業績見通しの見直しを含め、将来に関する記述を更新あるいは修正して公表する義務を負うものではありません。

当社が属するエレクトロニクス業界は、常に急激な変化に晒されていますが、当社の業績や財産に重大な影響を与えるリスク、不確実性、その他の要因には、(1)経済環境、市場・需給動向、競争状態、(2)為替レートの変動、(3)技術進化への追従の成否、(4)原材料の高騰あるいは調達難、(5)各国・地域における法制度の変更あるいは社会情勢の急変、(6)偶発事象の発生などがありますが、これらに限定されるものではありません。